女性委員研修会 リポート

「目で見て なるほど 男女共同参画」

■日時／平成19年11月30日 10～12時
■場所／コンパルホールアートルーム
■講師／大分大学教授 久保（くぼ） 加津代（かつよ） さん

講師と受講者

政策方針決定の場への女性の参画が進められ、審議会などでの女性委員の人数が増えつつあります。大分市においても今年1月に、女性委員の登用率が30％を超えました。

今回は、現在大分市の審議会や委員会の委員あるいは自治委員として活躍されている女性を対象に開催された研修会をリポートしました。

研修会は「目で見て なるほど 男女共同参画」をテーマに、女性差別や性別による固定的役割分担を表現した新聞やパンフレットなどを持参していただき、身近にあるジェンダーを考えることから始まりました。

その後講師のお話を聞いて、グループに分かれて日頃の活動や生活のなかで気づいたことなどを話し合いましたが、参加者の様々な熱い意見が出され、あっという間に時間が過ぎました。

《講師のお話より》

私は、常々女性の視点を次の様に捉えています。

一つ目は弱者に対してのやさしさを持っていること（本当の心の強さを持ち得ている）

二つ目は命に近い存在であること（お産の役割を担っているため、戦争に反対し平和を愛する気持ちが強い） 三つ目は生活を守る立場にあること（日常の家庭生活の担い手である）この様なすばらしい資質、視点を持つ女性があらゆる場所でもっと活かされるべきであると思っております。

大分市では平成18年6月に男女共同参画推進条例が制定され、女性に対する理解度も少しは変化してきました。しかし、今も「男は仕事、女は家庭」といった固定的観念にとらわれているため、女性の社会進出がなかなか認められない状況が沢山あります。

また、性別による差別的取扱いもなかなか減りませんし、女性の人権を無視するような表現、そして職場での不等な扱い、再雇用率の低さ等々、まだまだ問題が山積しています。依然として男性優位の考え方が根強く残っています。

今回のワークショップを通して女性委員の方々から、出された意見を「大分市男女共同参画心意気歌留多」と称して発表しました。いくつか紹介してみたいと思います。

- 「お茶頂だい」 私が言ってもいいじゃない
- 好きなもの やりたいことに男女なし
- 定年後 初めてのお使い「奥さん病気？」と聞かれる
- 考えよう 互いの立場 男女とも

私達女性が各々の立場、環境において見識を高め人権意識を身につけていくことの大切さを学びました。